

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那高等学校

学校番号 49

I 自己評価

1 学校教育目標	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する。	
2 評価する領域・分野	◇教育目標・学校評価	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>◇7月に実施した学校評価アンケートにより、特に目立った事項について、以下のように分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<家庭との連携>項目9「学校は、保護者の悩みや相談に適切に対応している」また、<進路指導>項目32「学校は、生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスをしている」共に大幅に向上している。全職員が教育相談的な観点での早めの対応、また学年、教科担任等チームとして問題を共有し解決策を講じていることが評価につながったと考えられる。 ・<学習指導>項目25「授業を通して一人ひとりの能力に応じた指導を行っている」では、保護者（78.3%から59.1%）、生徒（72.0%から59.6%）共に大きく後退している。授業の内容・進度、日々の課題、考査の問題作成等が生徒の学力とマッチしているのか、改めて深く分析し、現在進めている授業改善のみならず、生徒がやる気になる（生徒のやる気に火をつける）学習活動を行うことが最大の課題であることがはっきり見える結果となった。一方項目23「学校はテストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている」では、生徒評価が一昨年の51.2%から62.9%（保護者への質問はなし）へ大きく上昇していることから、先生への信頼度は高く、項目25改善に向けては教員次第と考えられる。 ・重点目標でもある【開かれた学校づくり】の観点から、項目35「学校は、外部講師の講演や様々な体験を積むなど、授業以外の学習の機会を多く設けている」項目42「学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している」項目53「地域の中の学校として、地域に評価されるような教育活動や行事を行っている」をはじめ開かれた学校として、評価が上昇しており、地域からの信頼、期待を得ている。これは依頼されるボランティア活動ばかりではなく、「恵那田舎塾」に代表される、地域の方と問題を共有し、解決に向かう姿を発信している成果だと考える。地域からの働きかけも増え、精選も課題である。 	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科教育・進路指導の充実 ◇人間教育の充実（開かれた学校づくり） ◇職員の「働き方改革」の推進	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	◇職員会議や各種委員会、教科研究会等での適切な現状把握と共通理解に基づく改善と実践 ◇分掌内の仕事分担の効率化と、分掌間の連携	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業及び諸行事の公開。SSHや総合的な学習の時間の取組・発表等の周知・公開。 (2) 授業研究会をはじめとする職員研修。 (3) 保護者懇談会及び学年懇談会。小中学校との連携。 (4) SSH事業における他校種との連携。 (5) 行事の精選と内容の充実。 (6) 「早く家庭に帰る日」、ノー残業デーの推進。	(1) 生徒、教員による授業アンケート・評価。 (2) 新聞等記事掲載数や地域の評価と期待。 (3) 学校、家庭での学習習慣の確立。生徒の学習に対する興味・関心の高まり。教員の自己評価、授業評価。	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) PTA総会、学校評議員会、SSH運営指導委員会、岐阜県ふるさと教育週間、PT	① 保護者や地域からの学校への関心や期待。生徒の満足度や	A B C D

<p>A 高校見学会等での授業公開。文化祭・体育祭の一般公開。</p> <p>(2) 新聞、市広報等への記事の提供。</p> <p>(3) 授業アンケートの実施。他教科の授業参観や教員の相互評価の実施。学校行事、教育相談、情報教育、ホームルーム運営に関する校内研修会の実施。</p> <p>(4) 各分掌主任による連絡会の定期実施。</p>	<p>進路結果。</p> <p>② 校内外で活躍する生徒の姿。</p> <p>③ 基礎学力の定着</p> <p>④ 職員の時間外勤務時間の削減</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
<p>11 成果 ・ 課題</p>	<p>○学校の教育活動や生徒の様子について、中学校や地域の方々、保護者等への発信を増やした。</p> <p>○アクティブラーニングの手法等により、互いに協力し合い学習しており、その成果が期待できる。</p> <p>○教職員が熱心に研修に参加し授業改善を図り、高大接続等の教育状況を共通理解し教育活動全体に活かすよう努めている。</p> <p>○LHR、総合的な学習（探究）の時間の改善を図り、生徒自身による課題発見、課題解決に向けた取組を通じ、社会性をもち、互いに協力する態度とコミュニケーション力を醸成することができている。</p> <p>○安全で安心して学べる学習環境が整っている。</p> <p>○ボランティア活動や「恵那田舎塾」など、地元自治体等と連携を深め、地域での活動の機会を増やした。</p> <p>○「SDGs」を意識した取組が開始された。</p> <p>▲生徒の実態を細かく把握し、授業内容や確認方法の検討が行う。</p> <p>▲学習の課題や小テストについて、生徒や教員の負担及び効果を見極め、適切な分量や方法を検討していく必要がある。</p> <p>▲ICT機器が整備され、より学習効果が上がる活用を研究・実践する。</p> <p>▲「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図る。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A B C D</p>
<p>12</p>	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科「課題研究」や普通科「総合的な探究の時間」などの本校の特長的な取組である探究学習についてさらに深化し、HPや報道を通して地域への理解を図るため広報活動を充実させる。 ・変化する教育状況や生徒の実状を踏まえ、目指す学校像・育成する生徒像に向かう共通理解を深め、その実現に向け授業をはじめとする教育活動全体の改善を図る。 ・さらに学校の魅力を外部に伝える努力を続ける。 ・高大接続改革をはじめ、予想を上回る変化に対応するため、教職員、生徒、保護者が情報を共有し、キャリア教育の一層の充実を図る。 ・「働き方改革」の観点から、職員の時間外勤務の縮減を図るため、課題や小テストの分量や方法の検討、会議の効率化、部活動の在り方等について検討を続け、実行に移す。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和2年1月28日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革について、これからの対策を明確にし、日頃から心身のケアに努めてほしい。職員一人ひとりの雰囲気や全体へ影響を与えることもある。抑うつ感や身体愁訴など、全国比較では低いものの安心はできない。 ・これから必要とされる社会人として、文武両道の学校であってほしい。 ・開かれた学校として、様々な活動やボランティア活動が行われていることが、広く広報されている。中学生向けや保護者向けに発行されている「恵那高ニュース」は、恵那高校の活動の様子がわかり、見ていて楽しい。
